

| | |
|------|----------------------|
| 科目名 | 多文化共生を目指した地域課題プロジェクト |
| 担当者名 | 錦織信幸/長坂香織/杉山歩 |

【科目の目的】

1990年の入管法改正から在留外国人の急激な増加がみられ、とりわけ1995年1月の阪神・淡路大震災以降、多文化共生社会に向けた取組みが数多く見られるようになってきました。しかし、地域の多文化共生は進んでいるとは言い難いのが現実です。この授業の目的は、地域の多文化共生の現状と課題を理解し、多文化共生を進展させてきた全国の好事例を学び、多文化共生に資する対話型プロジェクトの企画・運営(実施)の方法について理解し、実際に体験することにあります。

具体的なテーマとして、外国の方の住まいにかかわる課題について取り組みます。住居は人が生活する上で欠かせない基本的ニーズであり、安心・安全な生活を営む上での基盤となるものです。しかしながら外国籍の方々や外国にルーツを持つ方々にとって、日本での住宅確保は容易ではなく、差別的な処遇も横行しているという現状があります。本科目では、住居の賃貸・管理にかかわる関係者、住居に課題を抱える当事者の方々などから学び、課題解決のための具体的なアクション(対話型イベント)を計画・実施します。

(学士基盤力)

社会・文化理解、想像力・表現力、実践力・問題解決力、人間関係形成力、自己学修力、地域・国際コミットメント力

【到達目標】

(知識・理解)

- ・地域の多文化共生の現状と課題を理解し、説明することができる。
- ・対話型の場づくりの企画・運営の方法を理解する。

(思考・技能・実践)

- ・実際に多文化共生に資する対話型の場の企画をすることができる。
- ・実際に多文化共生に資する対話型の場を運営することができる。
- ・多様な人々と協働して場づくりができる(共創)。

(態度・志向性)

- ・多様性を受容れ、多様な人々と協働しようとする。

【授業内容】

対話型プロジェクトとは、ここでは多様な人々と協働して企画・運営される、多様な人々が集い人間関係を構築できる対話型の場づくりを意味します。

第1回から第5回および第8回を学内で対面で行い、第6・7回(土曜日)は企画したプロジェクトを実施します。第8回はその振り返りを学内でを行い、プロジェクトの企画から実施を評価し、改善点を検討します。毎回、アイスブレイキングから始め、緊張をほぐし、人間関係をつくります。

第1回(11/28 火)オリエンテーション/山梨県の多文化共生の現状と課題/外国の方の住まいにかかわる課題(概観)

第2回(12/5 火)外国の方の住まいにかかわる課題(賃貸管理業者の視点から)

第3回(12/12 火)関係者を交えたパネルディスカッション

第4回(12/19 火)課題の整理 / 多文化共生プロジェクトプロジェクト企画

第5回(1/16 火)プロジェクト実施の準備①

第6回(1/23 火)プロジェクト実施の準備②

第7・8回(未定)プロジェクト実施と振り返り

(授業外の学修)

授業では、相互に意見交換(ディスカッション)ができるよう、プロジェクトに向けた準備のための情報収集、

企画案・チラシ案の作成を授業外で行う。毎回、振り返りを授業後に各自行い提出する。

【教育方法】

- ・多文化共生に関わる課題、および対話型場づくりの方法について講義する。
- ・地域の課題や現状について、当該分野の専門家・実務家からの視点を提供する。
- ・アクティブ・ラーニング：主にグループワーク、ディスカッションを通して、対話型プロジェクトを企画から実施まで行う。その際、多様な人々（多様な学部学生、社会人、留学生）が、それぞれの意見を出し合い、一つの場を創り上げる体験をする。

【実務経験のある教員による教育方法】

- ・海外における人道援助活動や移民の権利保護にかかわる活動、日本国内における外国の方への住居・生活支援業務に携わっている経験を活かし、居住・移動の自由に関する基本的人権および日本における住居関連法令の視点、実務的な視点から指導を行う。
- ・多文化共生関連の市民団体の代表を務めており、そのコンテスト、フォーラム、セミナーの実施経験を活かして授業を行う。

【評価方法】

（知識・理解）

- ・毎回の振り返り 20%
- ・レポート 20%

（思考・技能・実践）

- ・企画・実施への貢献度 20%
- ・最終レポート 20%

（態度・志向性）

- ・ディスカッション、グループワークへの参加状況 20%

【必携図書】

なし

【参考図書】

香取一昭、大川恒著(2011). ホールシステム・アプローチ 1000人以上でもとことん話し合える方法. 日本経済新聞出版.

香取一昭、大川恒著(2017). ワールド・カフェをやろう(新版) 会話がつながり、世界がつながる. 日本経済新聞出版.
『多文化共生事例集(令和3年度版)』 https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/tabunkakyousei_suishin_r03.html

- ・その他、参考図書、参考資料は随時指示する。

【履修上の注意】

- ・本科目は、次の時間帯と場所で実施する。
第1回 11/28 ～ 第6回 1/23 18:15～19:45 山梨県立大学飯田キャンパス
第7・8回 プロジェクト実施と振り返りの日時・場所はプロジェクト企画の過程で決定する

【履修者へのメッセージ】

近年、多文化共生にかかわる課題について学ぶ機会は多くなってきましたが、本科目の特長は、社会的課題について学ぶだけでなく、問題点を整理し、具体的な解決策をデザイン・実施する部分にあります。問題分析能力、問題解決能力、企画・実施能力を育むことができる貴重な「面白い」機会を提供できます。多様な人を巻き込む場づくりは、困難も伴いますが、人との新たなつながりも得ることができます。

自ら考え、それをクラスで共有し、積極的に参加・協働して場を共創することを楽しんでください。
留学生、大歓迎です。